

小さな傷で、術後の痛みも少なく、回復も早い 内視鏡下外科手術



『内視鏡下外科手術』とは、お腹や胸などに小さな穴を開け、そこから内視鏡（カメラ）や器具を入れて、モニターの映像を見ながら行う手術です。

小さな傷で手術を行うため、術後の痛みが少なく、回復も早いために早期の退院が可能で、高齢の方や忙しい働き盛りの方、女性には恩恵の大きな手術方法です。

ただし、従来の大きく切る手術に比べて、高額な機材と高度な手術技術を必要とします。

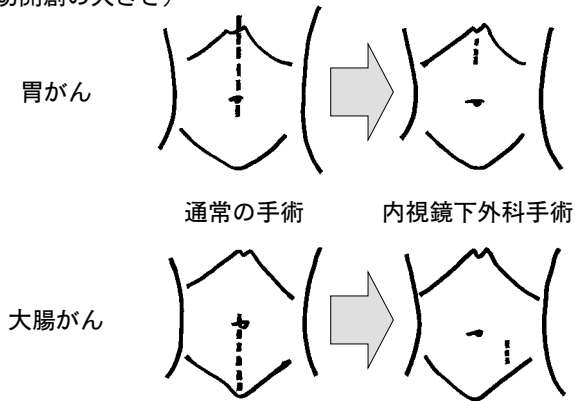
一般的には、胆石や早期がんの一部など、比較的技法が容易な病気に限定されて行われています。

大学病院専門医との連携

美濃病院では、阪本院長が岐阜大学の内視鏡下外科手術を先導していたことから、移転を機に最新設備を導入して手術を開始しています。

そして、CTやMRIなどの画像から病気の情報を引き出す『放

(切開創の大きさ)



射線科専門医』や胃や腸などを内視鏡を使って診察する『消化器内視鏡医』など、大学病院の専門医との連携によって、胃がん・大腸がんの内視鏡下外科手術においては、県下でも有数の施設となっています。

美濃病院の平成16年の内視鏡下外科手術の割合は全身麻酔手術の28%を占め、うち悪性疾患が23%

美濃病院は、地域の医療施設と連携し、地域ぐるみで満足度の高い医療を提供することを目指しています。

と高い値になっています。

胃がん手術の10%、大腸がん手術（大腸がんのほとんどは高度な技術が必要な進行がん）の50%が内視鏡下外科手術で行われ、いずれも首都圏の先進的施設と同等の手術割合となっています。

最近では、岐阜市をはじめ中濃地区以外からも、この手術を受けに来られる方が増えています。

全身管理ができるスタッフ

美濃病院の外科医師は、岐阜大学高度先進外科（第一外科）から派遣されています。

心臓血管・肺・消化器一般の3グループからなる第一外科では、医師全員が全領域の臨床経験を積んだ上で、いずれかの専門を選択するシステムで運営されているた

めに、全身管理ができる外科医が育成されています。

ですから、美濃病院の外科では胃、大腸、肝臓、胆のう、すい臓などの腹部臓器の病気を中心に幅広い診療を行うことが可能となっています。

専門外来では『静脈瘤』『乳がん』『痔疾患』を扱っており、スタッフ全員が乳がん検診マンモグラフィー読影認定医の資格を持っています。

また、4月からは心臓血管・呼吸器を専門とする非常勤医の参加により、腹部大動脈瘤を含めた血管の手術も開始しています。

このように美濃病院では大学病院とのネットワークによって、幅広い領域で良質な外科治療を展開できる環境が整いました。

また、院長を指導医として、日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会の専門医研修施設としても認定されています。

美濃と岐阜



岐阜大学高度先進外科学
竹村 博文 教授

この度の阪本研一先生の院長ご就任を心からお喜び申し上げます。

先生に初めてお会いした時、彼の常に患者のことを考え、常に病院のことを考え行動している姿に感動したのを覚えています。

彼はこれまでも大学病院をはじめいろいろな病院で、手腕を発揮し、その地の医療水準を高めてきました。

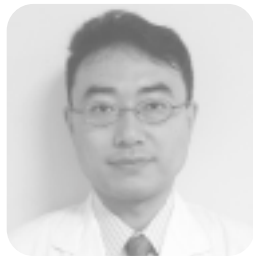
彼は先端医療である内視鏡手術の専門医であるのみならず、組織のリーダーとしても能力ある人です。

医師不足、医療不信が叫ばれている今日この頃ですが、彼は必ずや美濃病院を、市民の皆様の健康維持と治療の拠点としてさらに発展させてくれるものと信じています。

美濃と岐阜は長良川で結ばれています。かつて長良川で人物の交流があったように、岐阜大学としては、強い病院同士の連携をこれからも重視し、特に信頼いただける外科治療を中心に、美濃病院を応援して参ります。



院長
阪本 研一
(さかもとけんいち)
日本内視鏡外科学会
評議員、日本肝胆
外科学会評議員、日
本外科学会指導医、
日本消化器外科学会
指導医、日本消化器
病学会専門医など



外科医長
村瀬 勝俊
(むらせかつとし)
日本外科学会認定医
日本消化器外科学会
認定医
日本消化器病学会
日本胃腸学会
日本胆道学会など



外科医師
木村 真樹
(きむらまさき)
日本外科学会認定医
日本消化器外科学会
日本内視鏡外科学会
日本臨床外科学会
日本腹部救急医学会
など